

令和7年度（2025年度）第1回北区まちづくり懇話会 会議録

【日時】 令和7年（2025年）6月24日（火）午前10時～12時

【場所】 北区役所2階第2～4会議室

【出席委員】 岡 順子、関 智弘、平山 愛、久富 将功、原口 美季、
廣永 芳伸、村中 亮太、吉永 洋子、徳永 親、堀 史、
松本 康宏、渡邊 和代、井村 ユリエ、一安 明子、
古市 伸一郎、境 真紀 以上16名（敬称略）

【傍聴者】 1名

【会議次第】 1 開会
2 北区長挨拶
3 委員紹介
4 職員紹介
5 会長・副会長選出
6 審議事項
 (1) これまでの取組について
 (2) 今年度の審議内容
7 北区長と意見交換
8 閉会

1 開会

2 北区長挨拶

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

皆様方には日頃より市政全般にわたり、格別のご理解とご協力をいただいているところでございますが、さらに、まちづくり懇話会の第7期の委員として、北区のまちづくりにご尽力いただけますことを心より感謝申し上げます。

昨年度はこの懇話会でご審議いただいた、まちづくりに関する様々な情報をまとめた「地域カルテ」を作成したところですが、今年度は、近年の北区を取り巻く状況を踏まえ、特に「地域活動の担い手確保」と「在住外国人との共生」の2つの項目について、重点的に取り組んでまいりたいと考えております。

委員各位におかれましては、豊かな経験や専門的な知見に基づき、様々な角度からご意見賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本日のまちづくり懇話会が実り多きものになりますことと、皆様方のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。

3 委員紹介

各委員より自己紹介

4 職員紹介

各所属長紹介

5 会長・副会長選出

委員の互選により、会長に熊本保健科学大学の岡委員、副会長に熊本県立大学の関委員が選出され決定した。

6 審議事項

(1) これまでの取組について

資料1、資料2について、事務局より説明

(松本委員)

地域カルテは、町内自治会にも配付はあるのか。

(事務局)

北区内全校区自治協議会に配付しており、要望があれば町内自治会へお渡ししている。

(古市委員)

地域カルテは民間利用も可能か。

(事務局)

熊本市ホームページにも掲載しているので、ぜひ利用していただきたい。

(岡会長)

熊本保健科学大学でも学生の講義に活用している。

(事務局)

項目によって、年次がバラバラなのでご注意ください。

(岡会長)

アンケートの中で「住み続けたい町であると感じる市民の割合」とあるが、他の区はどうなっているか。

(事務局)

令和6年度のアンケート結果を紹介

- ・中央区・・・64.0% (令和5年度：78.1%)
- ・東区・・・67.3% (令和5年度：79.8%)
- ・西区・・・69.8% (令和5年度：77.5%)
- ・南区・・・63.1% (令和5年度：75.2%) ※青字参考
- ・北区・・・62.5% (令和5年度：71.7%)

(岡会長)

北区の結果は落ちているが、今後も経年変化を捉えて課題の解決に向けて取り組んでいただきたいと思います。

(堀委員)

P T Aの加入者が減っている。高平台小学校では、加入者が4割。今後も減っていく一方。同じように自治会に加入しない事を前提に考えていくことも必要だと思う。市からのお知らせも見ない方が多く、自治会未加入の方への周知方法等があれば教えていただきたい。

(吉永委員)

北部中学校では、P T Aへの未加入者は1割程度。川上小学校は、ほぼ全世帯が加入している状況。

他の学校では、P T Aに加入するかしないかのアンケートを取っているところがあり、そういうところは加入率が低い。P T Aへの加入が地域活動に繋がっていると思う。

これまで、P T Aの役員を選ぶ際、P T A執行部が特定の人に声をかけて探していたが、メールでアンケートにして呼び掛けたところ、たくさんの方が来てくれた。

参加しない方の意見として、「どういう活動をしているか分からなかった」「興味はあるが入口が分からない」という意見が多数あり、自発的に参加できる仕組みづくりが大切だということに気づいた。

(岡会長)

潜在的な部分はあると思うが、工夫していくことで変えることができる。

(古市委員)

民生委員の成り手不足のため、自治会等の繰り越し金を民生委員の報酬に充ててはどうかという提案があったが、法的に難しくできなかった。法律がネックになっているものもある。

(福祉課長)

後継者や年齢の問題等様々な課題がある。民生委員への報酬は支給されていないが、活動費として年間11万円の支払いをしている。不足を補うために地域から活動支援金として渡すことは可能である。

(徳永委員)

現役社員が地域活動の担い手になるのは難しい。定年退職者には、知見と経験がある方が多く担い手には最適な人材だと思う。企業が率先して始めると良いと思う。

神奈川県横浜市の磯子区では、中学生が自治会役員になったという記事が出ていた。小さいころから地域活動に積極的に参加をしてきた結果、面白そうと自治会役員に立候補したとのこと。

(村中委員)

若返りの面でも、中高生が入るのは良いと思った。企業を巻き込む動きについては、今後出来たら良いと思う。

(井村委員)

6月の市政だよりに「くまもとアプリ」の記事が掲載されていた。ポイ活が地域活動を盛り上げる良いきっかけになると思う。ただ、地域活動の参加者を募集できるようになったそうだが、難しいのでスムーズに行くようになると良いと思う。

(事務局)

担当課である地域政策課に伝える。

(渡邊委員)

熊本健康アプリがあるが、くまもとアプリと連動すると使い勝手が良いと思う。現役を引退しても、まだまだ役に立ちたい人は多くいるため、ボランティアをした人にポイントを渡すことで更にやる気が出ると思う。

ポイントを受け取りやすく使いやすい仕組みを考えていただきたい。

(2) 今年度の審議事項について

資料3～資料5について、事務局より説明

(徳永委員)

日本人の英語教育をもっとしっかりして、交流が深まれば良いと思っている。

(井村委員)

ネパールやベトナム等仕事で来ている外国人が多くいる。言葉が難しくごみ出しで注意を受けて以来、外に出るのが怖くなったという人がいた。

2月に国際交流事振興業団と一緒に外国人の方と料理を作って交流をする機会が

あった。日本語があまり通じなくても、ベトナム料理やいきなり団子と一緒に作る
ことができ交流が深まった。

一緒に体験することで、顔見知りが増えて挨拶もできてとても良い機会になった。

もっと機会を増やしたいが言葉の壁があり、通訳は必須。イベントを周知する際
にも英語表記が必要となり、手伝ってくれる人がいればいいなと思っている。

(清水まちづくりセンター)

清水まちづくりセンターでは、日本語教室を開催している。国際交流振興事業団
と共催するが、好評につき定員一杯となっている状況。

(岡会長)

日本語を学ぶ機会を増やしていくことも大切だと思う。

(事務局)

ここで、本日欠席の章委員から、事前質問に回答をいただいているので紹介する。

Q 1. 在住外国人が地域のイベント等に参加しやすくなる方法にはどんな方法があ
ると思うか。

- A 1. ①案内チラシなどを多言語・やさしい日本語で作成
②通訳サポーターを配置し、安心して参加できる環境をつくる
③文化や料理などをテーマにした交流イベントを企画
④学校や地域の子どもを通じたつながりづくり（保護者同士の交流）

Q 2. 防災対策について、災害への備えの方法、避難場所や避難する際に注意する
ことの伝え方など、外国人の方へも伝わりやすい方法にはどんなものがある
と思いますか。

- ①避難場所や準備物を多言語でイラスト付きで説明
②外国人向けの防災訓練を定期的実施（通訳つき）
③短い動画や SNS を使って、わかりやすく情報発信
④やさしい日本語や英語を使った防災学習会を開催

以上の回答をいただいた。

(松本委員)

これまで5年間防災訓練を行ってきたが、外国人の参加はなかった。それは、ま
ず運営する側が災害時の対策についてよく分かっていなかったため。地域にはベト
ナムの方がたくさんいるので、清水まちづくりセンターで日本語教室に参加する方
等にも参加していただきたいと思っている。

言葉の壁もあると思うが、防災倉庫の中にある初動キットには英語表記のものも
ある。そういうものも活用していきたい。

また、清水まちづくりセンターとも連携していきたい。

(関副会長)

情報をどう流すか。必要な人に必要な情報が届くことで、繋がりを作りやすくな
るが現状難しい状況である。

市民にとって、入口が分かりにくくなっていると思う。“熊本市民ならこのアプ

りさえ登録しておけば繋がっていく” ような仕組みがあると良いと思う。

窓口を一本化するために工夫が必要だと思うが、現在、外国人へ情報を流す際に決められたルートはあるか。

(事務局)

国際交流会館があり、そちらからの発信はある。ホームページを主に活用している。

(関副会長)

全員に届くのは難しいが、相談するところがはっきりわかると良いと思う。

(古市委員)

① 課題解決

② 貢献したい人の声を吸い上げる仕組み

2つのルートがあった方が良いと思う。

(岡会長)

どうやっていくか、見える化は必要と考える。

7 北区長と意見交換

(吉住区長)

これまで、50回以上の意見交換を行い、様々な方と話す中で「担い手不足」と「外国人」についての課題を痛感したところ。

6月10日、熊本経済同友会や町内自治会長を集めて開催された意見交換では、企業と地域の仲間意識が生まれた。

8月の下旬には、北区の4地域で自治会と企業と行政が参加する「集談会」を開催する。企業や病院、学校等も参加する。地域と企業等の交流はこれまであまりなかったようだが、今後の地域発展のために有意義なものにしたい。

企業からは、地域貢献をしたいがどこに言ったらいいかわからないという意見もある。地域事業に参加することで、企業のPRに繋がるような良い関係を築いていきたい。これまでになかった取組なので、皆様にもぜひご参加いただきたい。

(徳永委員)

外国人に限らないが、0円ショップ開催の場をまちづくりセンターに提供いただけないだろうか。市民が物品を持ち込み、行政は場所の提供をする。

(吉住区長)

まちづくりセンター検討させていただきたい。

(平山委員)

現在、観光客に対して、料理の説明や温泉の入り方等ボイストラを使用してお手紙を用意している。旅館を利用される外国人へは対応してきているが、地域にいる外国人に対して何もしていないと今回気付くことができた。今回のことを持ち帰ってみんなで出来ることを考えていきたい。考える良い機会を与えていただきありが

とうございます。

(北区長)

北区では、台熊友好会とネットワークがあり、アナウンスしてもらうことが可能。植木温泉祭を昨年度企画し、外国人の方にも楽しんでいただいた。今年も開催予定としている。

(渡邊委員)

外国人の方との交流で、高齢者には言葉の壁はなく、ジェスチャーで通じる。こどもはこども同士で通じるものがある。小さなマルシェやイベントは来やすいし、来てもらうと交流が生まれる。行政からイベントの案内をしてもらうだけでも良い。行政や企業にも連携してもらえよう、地域で活動をしている団体に働きかけや発信をしてほしい。

(井村委員)

こども食堂をしていると、農家さんから野菜をたくさんもらうが、ひとり親やこども食堂で使用しても使いきれないことがある。そんな時に、地域の公民館で野菜などを保管する冷蔵庫を提供してもらえるところがあれば良いと思う。

(吉住区長)

まちづくりセンターへの課題として、外国人へ呼びかける方法等を検討する。冷蔵庫の件については保留する。

8 閉会

次回は10月頃開催

令和8年度のまちづくり推進事業についてご意見をいただく予定